

セッション番号: 1F-09

攪乱に対する生物応答の多様性はどのように生まれるのだろうか？

How does the diversity of biological responses to perturbations emerge?

開催日時: 12月3日(水) 19:15-20:30

会場: 第09会場 (4F「411+412」)

講演言語: 日本語

オーガナイザー: 坂井貴臣 (東京都立大学 理学研究科)

園下将大 (北海道大学 遺伝子病制御研究所)

生物は常に、遺伝子変異や環境変化など、個体の内外からの様々な攪乱に晒されている。興味深いことに、こうした攪乱に対する応答は、複数の生物種に共通して現れる場合もあれば、種ごとに固有のものも存在する。このような応答性の差を決定する要因の候補として、遺伝子や細胞型、これらの集合体である組織や器官、そしてそれらの間のネットワークが重要と推察されるが、その全貌は明らかになっていない。本フォーラムでは、こういった多様性の例を眺めつつ、どうすれば多様性の成立機序を明らかにしていけるか議論したい。

19:15-19:20 趣旨説明 園下将大 (北海道大学・遺伝子病制御研究所)

19:20-19:35 奥住文美 (順天堂大学 医学部 神経学講座)

19:35-19:50 西浜竜一 (東京理科大学 創域理工学部)

19:50-20:05 福田真嗣 (慶應義塾大学 先端生命科学研究所)

20:05-20:20 阿部興 (東京科学大学 総合研究院 難治疾患研究所)

20:20-20:30 総合討論